

ケブカノメイガの発生と被害状況

竹内浩二・嶋田竜太郎・岩本千絵*・椿 眞由巳・伊藤 綾^{*2}・竹内 純^{*3}
(島しょセ大島・*病虫防除所・*²島しょセ三宅・*³島しょセ八丈)

【要 約】 関東では未発生であったケブカノメイガの発生と被害を大島と御蔵島で確認した。ブロッコリー、キャベツ、ハクサイなどアブラナ科作物で幼虫による食害被害があり、一部圃場では多発しており被害は大きい。大島では既に全域に分布している。

【目 的】

ケブカノメイガはアフリカ、インド、東南アジア、オーストラリアなど熱帯～亜熱帯に分布し、東南アジアではアブラナ科野菜の重要害虫である。我が国における本種の発生は1987年に沖縄県石垣島で初めて確認された侵入害虫で、89年以降、沖縄県では定着して夏期のアブラナ科野菜の害虫となっている。その後、90年に静岡県、99年に兵庫県で発生が確認された。03～04年には静岡県である程度の発生が認められている。東京都板橋区でも99, 04年に成虫採集記録があった。ここでは本種の伊豆諸島での発生状況を明らかにする。

【方 法】

アブラナ科作物を中心に生産圃場等を巡回調査などで定期または不定期に害虫の発状況を調査する。

【成果の概要】

1. 2010年9月27日、東京都大島町北部岡田地区のブロッコリー圃場において幼虫の発生と被害を確認した(図1)。その後、巡回調査などで発生を認めた地域は岡田、元町、北の山、差木地で、既に島内全域で発生していることが明らかとなった。一部の圃場では多発生状態で、食害被害は大きかった。
2. 区部や多摩地域(病虫害防除所による)では現在まで発生を認められなかった。また、三宅、八丈島管内では、御蔵島でキャベツに幼虫が発生していたのを確認した(図2)。
3. 幼虫の寄生が見られたのは、全てアブラナ科作物で、ブロッコリー、カリフラワー、キャベツ、ハボタン、ハクサイ、ダイコンであった(表1)。
4. 卵は卵塊で、うろこ状に産み付けられており、約40～100個の卵塊であることが多かった。幼虫は若齢期からほとんど移動せず、糸を吐出し周辺に張り巡らし、集団で食害していた。キャベツ、ハクサイなどでは芯部(結球部)を激しく食害され、芯止まりの状態も見られた。
5. まとめ:ケブカノメイガの発生と被害を大島と御蔵島で確認した。ブロッコリー、キャベツ、ハクサイなどアブラナ科作物で幼虫による食害被害があり、一部圃場では多発しており被害は大きい。大島では既に全域に分布していた。
6. 留意点:静岡県では2月でも幼虫が確認されていることに加え、国外ではアブラナ科以外にもキュウリやレタスなどウリ科、キク科、フウチョウソウ科も寄主植物として報告されており、今後の発生推移に警戒する必要がある。



図1 ケブカノメイガ中齢幼虫（ブロッコリー葉）（上），雄成虫（左），卵塊（左下）（Bar：5mm）

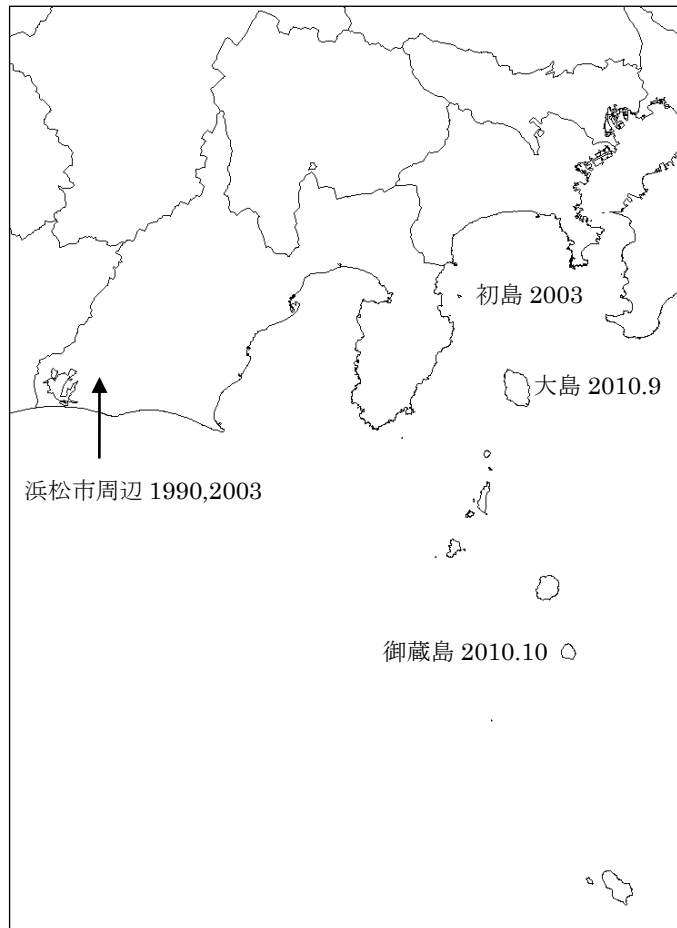


図2 伊豆諸島周辺のケブカノメイガ発生地

表1 ケブカノメイガ幼虫の発生と被害が確認された作物

アブラナ科

ブロッコリー, カリフラワー, キャベツ, ハボタン, ハクサイ, ダイコン